

# 公開ヒアリング実施状況

## 公開ヒアリング実施状況

平成23年度におけるプランの進捗状況について、外部の視点から評価・検証するとともに、次年度以降に向けての提案を得ることを目的として実施しました。

■開催日時 平成24年7月14日（土） 午前10時～午後3時50分

■開催会場 豊橋市役所東館8階 東81・86会議室（2会場）

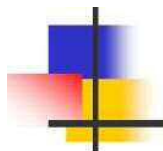
■テーマ数 10テーマ（市民生活に密接に関わる取組を中心に選定）

### 【第1会場（東81会議室）】

No.	テーマ	所管課（室）名	外部検証委員
1-1	自主的な耐震化への支援と市民意識の醸成	建築指導課	石原 俊彦 伊藤 眞芳 功刀 由紀子 富田 真知子
1-2	外国人との共生の地域づくりと外国人児童の学習支援	多文化共生・国際課	
1-3	市民や事業者との連携によるシティプロモーションの推進	シティプロモーション推進室	
1-4	広報紙等への有料広告掲載等による自主財源の確保	広報広聴課ほか	
1-5	地域医療機関との連携強化と救急医療の充実	市民病院医事課	

### 【第2会場（東86会議室）】

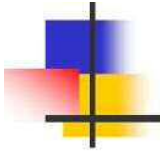
No.	テーマ	所管課（室）名	外部検証委員
2-1	大きな公園での指定管理者制度の導入	公園緑地課	世羅 徹 大久保 裕美子 諏訪 一夫 村松 史子
2-2	観光資源のPRに向けた関係団体との連携強化	観光振興課	
2-3	コミュニティバス運行支援など地域公共交通環境の充実	都市交通課	
2-4	災害時の情報収集・発信（災害情報ステーションの拡大など）	防災危機管理課	
2-5	ごみの減量化に向けた経済的手法の導入	環境政策課	



## 公開ヒアリング実施状況

### 1-1 自主的な耐震化への支援と市民意識の醸成（建築指導課）

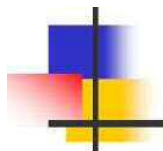
区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	① 市民の自主的・自立的な活動の推進
取組項目	市民の生命や財産を守るため、自主的な耐震化の取組を支援するとともに耐震化に関する市民意識の醸成 (効果目標等：住宅の耐震化率の向上)
各委員のコメント	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 要改修と診断されたもののうち 10%しか改修できていない現状に問題があると思う。経済的理由が主な理由であれば、補助金の増額などを検討していただきたい。</li><li>○ 特に高齢者のみの住宅では、心情的にも経済的にも改修に積極的ではないのは理解した。今後は心情面に訴える施策が必要なのではないか。 また、耐震改修啓発用のダイレクトメールが毎年同じ内容では誰も見ないので、内容をアレンジするなどの工夫を期待する。</li><li>○ 啓発活動のさらなる充実などで、本事業についてより実のあるものにしていただきたい。</li><li>○ 耐震普及は啓蒙・啓発事業なので、数値的な成果指標は必要である。また、阪神淡路大震災では、2階建家屋の多くは1階部分が潰れたため、本当に経済的な理由で改修ができないのであれば、耐震診断だけは行ってもらい、就寝は2階でしていただくなど、本当に最低限の生命を守る指導を行うことも効果があるので検討いただけないかと思う。</li></ul>
市民意見	耐震診断の結果を受けて耐震改修した住宅や診断で合格した住宅であっても、いずれ経年劣化はあるため、一定期間ごとに改めて耐震診断を行っていくような制度の構築を検討して欲しい。



## 公開ヒアリング実施状況

### 1-2 外国人との共生の地域づくりと外国人児童の学習支援（多文化共生・国際課）

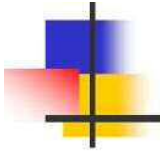
区 分	内 容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	② 地域団体等との協働事業の推進
取組項目	<p>1. 日本人と外国人が共生する地域づくりを目指し、地域団体等と多文化共生モデル地区事業を実施            （効果目標等：外国人の自治会活動等の参加率            現状(H21)29.1% 目標(H25)50.0%）</p> <p>2. 外国人児童の日本語の学習支援として、地域団体等とプレスクール事業やアフタースクール事業を実施            （効果目標等：子どもの学習環境の充実）</p>
各委員のコメント	<p>○ 市の支援活動を拡充することが求められている。また、自治会加入には経済的な理由も関係するので、外国人の就労支援に注力すべきである。</p> <p>○ 親の経済状況が子供に与える影響は大きいので、就労支援の充実は大切である。また、コミュニティへの積極的な参加について、外国人の中にリーダーを創る施策も必要である。ボランティア活動等に大学生の参加を促進してはどうか。教職課程に学ぶ学生にとっても勉強になると思うので、活用の道はあると思う。</p> <p>○ 顔の見える関係は重要である。個人相互が親しくなることが第一歩なので、今後も発展させて欲しい。</p> <p>○ 日本人は井の中の蛙になりがちである。豊橋市に外国人が多く暮らしているのは、「市の強み」なので、国際交流ができる若者を育てて欲しい。また、ブラジルの方の中にリーダーを育てる施策が重要だと思うので、NPO 法人をはじめ学生ボランティアの活用等、潜在的な能力を活かしてほしい。就労支援については、外国人の生活保護問題もあり、日本が抱える問題の縮図といえるので、期待したい。</p>
市民意見	<p>豊橋は外国人が多く住む団地もあり、外国籍市民との共生について地域の中で話し合っている。今後も市の尽力をお願いしたい。</p>



## 公開ヒアリング実施状況

### 1-3 市民や事業者との連携によるシティプロモーションの推進 (シティプロモーション推進室)

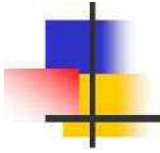
区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	③ 地域資源の発掘と積極的なシティプロモーション活動の推進
取組項目	1. 市民、事業者、行政が一体となった「オール豊橋」の体制づくり (効果目標等：官民一体の推進組織の設置と活動の推進) 2. 民間と連携した取組強化を図る仕組みづくり (効果目標等：ブランド認定や助成制度など各種制度の創設と活動の推進) 3. 「アイラブとよはし運動」の推進による市民への情報発信と市民の愛着意識の醸成 (効果目標等：市民の愛着意識の向上)
各委員のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 結果が見えれば、さらに相乗効果も見込まれるので周知に配慮が必要である。</li> <li>○ 前年度の踏襲ではなく、新たな認定制度を構築したことは評価できる。</li> <li>○ 平成 27 年度までが計画期間であれば、1 年ごとの成果も可視化すべきである。さらに充実した施策を行い、「住みやすいまち」から「住みたいまち」への移行が望まれる。</li> <li>○ 市民からの意見もあった情報の可視化は進めていくべきである。オール豊橋の体制作りを目指すシティプロモーションは、「人」、「金」、「もの」を有効に活用しなければならない。また、シティプロモーションの目的の一つには企業誘致等もあると思うので、頑張ってもらいたい。</li> </ul>
市民意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成果の可視化をされるのであれば、広報とよはしやホームページに掲載等があると市民としても効果が分かりやすいのでお願いしたい。</li> <li>○ 情報の可視化がないのが気になった。何を目標とした事業で、どうなったかが掲載されていれば知ることができる。</li> </ul>



## 公開ヒアリング実施状況

### 1-4 広報紙等への有料広告掲載等による自主財源の確保 (財政課、広報広聴課、図書館)

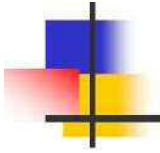
区分	内容
基本方針	3 財政運営の自律性・健全性の確保
重点推進項目	⑫ 市税の確実な収納と自主財源の確保
取組項目	1. 広報紙への有料広告掲載など (効果目標等：有料広告掲載（広報とよはし）3,780,000円) 2. 中央図書館、美術博物館、自然史博物館などのホームページへバナー広告掲載など (効果目標等：広告料収入 198,000円)
各委員のコメント	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 行政が広告を出すことについては、まだ確かに抵抗感があると思うが、市民にとって有益な広告もあるはずなので、その点を踏まえて発展させていくべきである。</li><li>○ 各施設で活用できるものがあれば、さらに導入できるはず。期待している。</li><li>○ 行政が自主財源の確保に対し、様々に工夫して取り組むようになった点が評価できる。</li><li>○ 行財政改革の全体像から見ると金額的にも少額であるが、自主財源の確保という面から評価できる。ホームページの売り込みといった企業へのアプローチは、その業務に精通した課が取りまとめて対応すれば効率もあがると思われる。事業全般については、市民からも厳しい意見をいただいたので、真摯に受け止めて、行財政評価全体に活かしていかなければならない。反省としたい。</li></ul>
市民意見	評価の仕方については、広告を出した企業等の関係者の評価を入れて評価すべきである。そうした形で公表しなければ、評価の意味がない。従前の評価のように、市からの一方的な、成果だけを誇張した評価であってはならない。



## 公開ヒアリング実施状況

### 1-5 地域医療機関との連携強化と救急医療の充実（市民病院医事課）

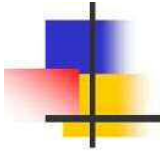
区分	内容
基本方針	3 財政運営の自立性・健全性の確保
重点推進項目	⑯ 地方公営企業の経営健全化の推進
取組項目	1. 救急医療の充実 2. 病診連携の推進 (効果目標等：紹介率・逆紹介率 (H25) 紹介率 60% 逆紹介率 30%)
各委員のコメント	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 地域医療の充実を市が進めていることを理解した。軽い病気は近所の開業医で、重い病気は市民病院でとのすみ分けが進むことを期待する。</li><li>○ かかりつけ医制度の充実は、医療体制の充実に直結するので、推進に期待したい。</li><li>○ がん地域連携パスの充実を含めて、本事業の充実を期待します。</li><li>○ 病院を多く使う可能性は子供が高いと思うが、休日夜間急病診療所の活用について、幼稚園等を通して周知する方法は有効ではないかと考える。患者の年齢が小児科から内科へ移行しても、急病は休日夜間という認識を植え付ければ、うまくいくと思うので一考を望みます。</li></ul>
市民意見	第三次救急病院である豊橋市民病院の発展を図るべく、外来患者（第三次救急ではない）を減少させることは正しいと思う。達成できれば、看護師不足を解消するため、外来患者の減少に伴って外来の看護師を病棟の方に移すことも可能ではないか。東三河の第三次救急病院として、職務を全うされることを期待している。



## 公開ヒアリング実施状況

### 2-1 大きな公園での指定管理者制度の導入（公園緑地課）

区 分	内 容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	④ 企業の公益的な活動への参画機会の拡大による良質なサービスの提供
取組項目	既存の指定管理者制度導入施設の効率的・効果的な運営の見直しと新たな導入施設の可能性を検討 (効果目標等：(既存の) 対象施設数1施設)
各委員のコメント	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 公園は社会的共通資本である。ハード面での充実を考えるだけでなくソフト面での充実が重要であることを認識して、行政と民間の役割分担をよく整理し、市民も参加できるパートナーシップで管理すべきである。</li><li>○ 使用する人が気持ちよさを実感できる管理運営が重要である。</li><li>○ ビジネス目線でよい公園を目指したとしても、状況を見極めて撤退する勇気も必要ではないか。</li><li>○ 市は指定管理者をよくチェックし、パートナーシップにより管理すべきである。</li></ul>
市民意見	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 経費削減はよいが、利用者の意見も受け止めてほしい。</li><li>○ 市と指定管理者が対等となり、意見が言えるシステムにしてほしい。</li></ul>

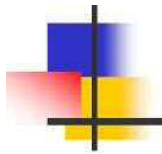


## 公開ヒアリング実施状況

### 2-2 観光資源のPRに向けた関係団体との連携強化（観光振興課）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	③ 地域資源の発掘と積極的なプロモーション活動の推進
取組項目	1. 観光資源の魅力とPRの促進に向けて豊橋観光コンベンション協会等との連携強化 （効果目標等：観光イベント、コンベンション参加者数 現状（H21）103万人 目標（H27）115万人） 2. 首都圏活動や市内でのイベント開催など協働によるプロモーション活動の仕組みづくりと推進 （効果目標等：市外でのシティプロモーション活動回数 現状（H21）6回 目標（H27）15回）
各委員のコメント	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市は新たな戦略を引き出し、それを伸ばす役割を果たすべきである。</li><li>○ 外から人が来ると、中の人もしっかりするし、活性化につながる。</li><li>○ テーマを整理することが重要である。観光資源を掘り起こし、それをつなげて歩いて行けるルートとして開拓する。</li><li>○ 資源がまだ眠っているように見受けられるので工夫してもらいたい。例えば「豊橋は人が良い」というのも資源である。情報発信を充実してほしい。</li></ul>
市民意見	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 豊橋市しかないものをもっとPRすべきである（吉田城・自然歩道・トーチカ・動物園）。また、そのためには自然歩道に駐車場が必要である。</li><li>○ 旅行者は新しいものを発見したい。意外とおもしろかったというのが大切で、それがリピーターにつながる。一度でお腹いっぱいになる観光地には二度は行かない。住みやすさ、動きやすさを活かし、生活の一部になるような観光地を目指してみてもどうか。</li></ul>

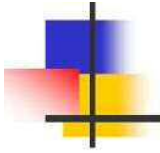




## 公開ヒアリング実施状況

### 2-3 コミュニティバス運行支援など地域公共交通環境の充実（都市交通課）

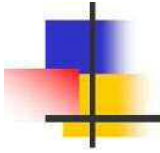
区 分	内 容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	② 地域団体等との協働事業の推進 ⑥ 行政の協働推進体制の強化と効果的な支援策の推進
取組項目	1. 地域の公共交通環境充実のため、コミュニティバス運行に向けた地域の主体的な体制づくりや取組を支援 2. コミュニティバス運行に対する効果的な支援 (効果目標等：取組地区数 現状（H22） 3地区 目標（H27） 5地区)
各委員のコメント	○ 地域の住民のため必要だと思われる。民間バス路線と競合するところは改善する必要がある。 ○ コミュニティバスは住民による地域づくりに役立っている。地域の実情に合わせたコミュニティバス運用に対する市の柔軟な姿勢も評価できる。 ○ 税金を投入する以上は公共関与のあり方を考えるべきである。収支だけで考えるとすぐ廃止となってしまふ。市もノーカーデーを実施するなど、民間や市民の力による地域の活性化や復元を目的とすべきである。 ○ 行政と地域の連携によるPRが必要である。補助金の支出を抑えた場合のインセンティブの付与や定期的な検証なども検討すべきと考える。
市民意見	○ 南部地域ではコミュニティバスの運行に向けた推進委員会を立ち上げたところである。高齢化が進み、80代で自家用車を運転していたり、移動手段が無い人も多いので是非支援をお願いしたい。 ○ アンケートでは60%以上がコミュニティバスを欲しいというが、実際は利用していない。ただ、地域の中で安心して暮らしたいという気持ちが強く、コミュニティバスは必要である。利用者は増加しており、長い目で見てほしい。



## 公開ヒアリング実施状況

### 2-4 災害時の情報収集・発信（災害情報ステーションの拡大など）（防災危機管理課）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	⑤ 行政情報の積極的な受発信と地域情報の共有化
取組項目	災害時の情報収集・発信の拠点となる登録事業所等（災害情報ステーション）の拡大 (効果目標等：登録事業所 現状（H22） 145事業所 目標（H27） 300事業所)
各委員のコメント	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 情報の精度とスピードが大事である。日頃から使っているコミュニティを利用すれば、その活性化にも繋がる。</li><li>○ ほっとメールが有効であり、防災ラジオも早く普及させるべきである。</li><li>○ ハード面も重要であるが、ソフト面の充実を早くして次のステップへと進むことが望まれる。</li><li>○ 何をどこまでやるのかの整理が肝要であり、拡大よりも、実行性の高い設置を行うべきである。さらにコミュニティを強化し防災意識を醸成することも大切である。</li></ul>
市民意見	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 機器を介して行うことは、機能しない場合も想定するべきである。ホームページの負荷分散のためにサーバーを分けたり、防災ラジオのメンテナンスや利用サポートまで行うべきである。</li><li>○ 情報源を拡大するのは混乱を招く恐れがあるので、むしろエリアを決めて質の向上を図るべきである。また、災害情報ステーションを継続するには、店員も異動が激しいためフォローが必要である。</li></ul>



## 公開ヒアリング実施状況

### 2-5 ごみの減量化に向けた経済的手法の導入（環境政策課）

区分	内容
基本方針	3 財政運営の自立性・健全性の確保
重点推進項目	⑬ 受益者負担の原則に立った使用料、手数料の適正化
取組項目	ごみの減量化に向けた経済的手法の導入など
各委員のコメント	<ul style="list-style-type: none"><li>○ ごみ減量は一人一人のモラルの問題であり、そこに有料化という抑止力を設けることは理解できる。ただ、その前にごみ減量推進検討委員会で議論すべきことは多い。</li><li>○ レジ袋の有料化自体は、税金を使わず市民の意識を誘導するものであり良いと思う。他都市は有料化により本当にごみが減ったのか調べてみてはどうか。豊橋の住民意識の醸成によりごみを有料化したという方法が望ましい。</li><li>○ ごみ減量に向けたごみ出しルールの改善など、ごみの有料化の前に取り組むべきことがある。</li><li>○ ごみ減量によって市が収入を得るのは目的がぶれている。行政用ではなく、市民用にデータを出す必要がある。ごみゼロ発祥地の豊橋では、有料化しなくてもこれだけごみを減量できたということを言える方策を期待したい。</li></ul>
市民意見	<ul style="list-style-type: none"><li>○ エコバッグはきっかけが無いと普及しない。行政による簡易的なエコバッグ配布と定着化に向けた働きかけを望みます。</li><li>○ ごみ減量については、2年前に数値を出していたが、今回はあまりないので納得がいかない。ごみ減量は生ごみ減量が鍵であり、自ら減量する人にはもっと助成すべきである。スーパーでのプラスチック容器の氾濫など、社会全体としてごみ減量についてどうすべきか考えていかなければならない。</li></ul>